

Episode4 History② 2015~2019

アートプロジェクト

【3校から12校へ】

第6回（2014年）までの八街ミュージアムは、八街駅南口商店街が学区である八街中央中学校区（八街中央中学校、実住小学校、交進小学校）の児童・生徒が制作したアート作品100~200点を展示していました。2015年、中心となる美術教師の人事異動をきっかけに、次年度より主催を印旛地区教育研究会第四部会（八街市）図工・美術研究部として、市内小・中学校が参加する展覧会にすることが決まりました。第7回（2015年）は参加可能な学校が参加し、第8回（2016年）より市内全小中学校12校が参加する現在の形になりました。これまで以上に多くの先生方が関わることで、教職員の人事異動に影響されにくい永続的な運営が可能になりました。また予算の確保、教育委員会の後援等、様々な面で活動が円滑になりました。

年表3 過渡期（第7回2015年~第9回2017年）

※八街ミュージアムHP内、Wikipedia風、年表より ■：印旛郡市中学校美術部展に関する記載 ▲：成田アート博覧会に関する記載

2015年

・2015年5月 来年度より主催を印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部とし、市内全小中学校参加による展覧会にすることが決定。本年度は参加可能な学校が参加するかたちとなる。これは教職員の人事異動に影響されない八街ミュージアムの永続的な運営を考えたもの。

【■2015年7月19日 佐倉市立美術館にて「第19回印旛郡市中学校美術部展（7/19~7/26）」開催】

【■2015年8月1日 ターナーギャラリーにて「アートクラブグランプリ（全国中学校美術部作品展）東京巡回展（8/1~8/10）」開催。本年度より正式に印旛郡市中学校美術部展・あさか美術部合同作品展（埼玉県）が協力団体となり、ポスターに記載される。関東の中学校美術部展を協力団体として随時募集】

・2015年8月16日 アジア基礎造形連合学会2015成田大会（8/16~8/22）の展示企画の中で、印旛地区が小中連携・地域連携として長年行っている実践として、「八街ミュージアム」と「成田アート博覧会」がパネルでの概要説明と作品展示で紹介される。会場は成田市文化芸術センター（成田スカイタウン内）5階ギャラリー-E。
https://blog.goo.ne.jp/inbabi_jyutubu/e/f/a0b4911a7a8832f3a2615aaacae1e536

【■2015年8月17日 千葉大学にて「第4回アートレセン（美術部実践交流会）in千葉大学」が印旛郡市中学校美術部展主催で開催】

・2015年10月 八街中学校1年生が八街駅北口で写生会を始める。美しくデザインされた八街駅を魅力的に描くことが目的の1つ。

・2015年10月19日 「第7回八街ミュージアム（10/19~11/8）」開催。市内小中学校（参加可能な学校）がブレ参加。【第2代表：八街中央中学校美術科主任】

【▲2015年11月14日 成田山表参道仲之町商店街・成田観光館にて「第5回成田アート博覧会（11/14~11/29）」開催】

2016年

・2016年4月16日 八街駅市民ギャラリーにて、八街中学校が前年度写生会作品を展示する「THE八街駅展（4/16~4/30）」を初開催。八街駅の魅力を、八街駅を利用する人々に知って（気づいて）もらうことが主たる目的。

【■2016年7月27日 佐倉市立美術館にて「第20回印旛郡市中学校美術部展（7/27~7/31）」開催】

【■2016年8月25日 千葉大学にて「第5回アートレセン（美術部実践交流会）in千葉大学」が印旛郡市中学校美術部展主催で開催】

【■2016年9月10日 ターナーギャラリーにて「アートクラブグランプリ（全国中学校美術部作品展）東京巡回展（9/10~9/17）」開催。印旛郡市中学校美術部展・あさか美術部合同作品展（埼玉県）が協力】

・2016年10月22日 「第8回八街ミュージアム（10/22~11/6）」開催。主催を印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部とし、市内全小中学校12校が参加。八街商工会議所（後の「ギャラリー拓道」）が初の展示場所になる。【第2代表（2015年同様）：印旛地区教育研究会第四部会図工

・美術研究部部長（八街中央中学校美術科主任）】

【▲2016年11月19日 成田山表参道仲之町商店街・成田観光館にて「第6回成田アート博覧会（11/19~12/4）」開催】

【■2016年1月21日 「第67回造形表現・図画工作・美術教育全国大会堺大会」（大阪府堺市1/20~1/21）にて、シンポジウム「アートクラブグランプリinSAKAIの果たす役割とこれから」のパネリストとして登壇。【パネリスト：IPU環太平洋大学教授／福井県観光文化振興課／八街市立八街中学校美術科主任（印旛郡市中学校美術部展HP担当）／滋賀県草津市立高徳中学校教諭／大阪府堺市立金岡北中学校教諭】コーディネーター：全国中学校美術部作品展代表】

2017年

・2017年4月16日 八街駅市民ギャラリーにて、八街中学校による「THE八街駅展2（4/16~4/30）」を開催。

【■2017年7月26日 佐倉市立美術館にて「第21回印旛郡市中学校美術部展（7/26~7/30）」開催】

【■2017年8月25日 千葉大学にて「第6回アートレセン（美術部実践交流会）in千葉大学」が印旛郡市中学校美術部展主催で開催】

【■2017年9月23日 ターナーギャラリーにて「アートクラブグランプリ（全国中学校美術部作品展）東京巡回展（9/23~9/30）」開催。印旛郡市中学校美術部展・あさか美術部合同作品展（埼玉県）が協力】

・2017年10月21日 「第9回八街ミュージアム（10/21~11/5）」開催。【第3代表：印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部部長（実住小学校図画工作科主任）】
 【▲2017年11月18日 成田山表参道仲之町商店街・成田観光館にて「第7回成田アート博覧会（11/18~12/3）」開催】



【「このプロジェクトには将来性を感じない」】

第1回（2009年）八街ミュージアムの研究発表の際、当時「大地の芸術祭（新潟県）」に作家として参加していた大学の先生が「八街ミュージアムは、いいアートプロジェクトになり得る」と言ってくださり、その年、武蔵野美術大学で行われた大学美術学会にも招待していただきました。しかし、この時点で、美術史における「アートプロジェクト」の概念を理解している中学校美術教師は印旛には少なく、そこから長い間、この言葉の意味を理解できぬまま地域連携としての八街ミュージアムを継続し続けました。研究発表の度に足を運んでくれていた大学の先生も「このプロジェクトには将来性を感じない」という言葉を残し、私たちの前に現れることは無くなりました。

八街ミュージアムが研究発表を行った分科会（千葉県造形教育研究会 部会D）では、毎年、千葉県内の小中学校が、主に地域連携に関する様々な研究発表を行ってきました。その街で可能な地域連携を、教師の専門性や経験や蓄積された授業の引き出しや、それまでに築き上げてきた地域とのネットワークなどを駆使して、それぞれの先生が形にできました。多くの実践は、単なる地域連携を目指したのではなく、美術

は「社会にどんな変化を及ぼすか」「社会にどう貢献できるか」「社会と繋がる、どんなツールになるのか」「社会を豊かにし、街を豊かにし、自分の生活や人生を豊かにするか」を、真剣に考える指導者の熱い思いが土台にあったように感じます。この分科会の部長は長い間印旛地区の先生方が務めており、地域連携は印旛地区の先生方が千葉県内の先生方と共に継続的に研究を重ねてきた分野であると言えます。

多くの地域連携に刺激を受けながら継続してきた八街ミュージアムですが、持続可能な運営の工夫や、児童・生徒の作品を多く街に展示する工夫や、多くの方々に鑑賞してもらうための工夫は行ってきたものの、心おどるような、その先の明確なビジョンは見えていませんでした。

【アートプロジェクトの可能性】

2018年、11年ぶりに千葉県で開催される全国大会、第73回全国造形教育研究大会2020成田大会の開催が決まり、再び地域連携に関する研究発表を印旛地区の中学校がおこなうことになりました。これまでの「八街ミュージアム」を振り返り、さらなる可能性を模索するチャンスだと考え、研究発表に向けた準備が始まります。これにより「八街ミュージアムの存在意義」「八街ミュージアムの必要性」「八街ミュージアムの価値」「八街ミュージアムが児童生徒、教師、保護者、街や街の人々に何をもたらすのか」などを、本気で考えるようになります。



時を同じくして、八街駅南口商店街より新たなシャッター画制作の依頼を受け、2018年2月、八街中学校美術部による「第2期シャッター画制作」がスタートします。2007年に終了した第1期のシャッター画（すずらん通り・裏通り）のデザインは自由におこなっていましたが、第2期は表通りということもあり、元々その場所にあったお店のイメージを残して欲しいとの依頼を受けます。1枚目（第1期から通算7枚目）「書店」の制作が始まり、学校（教師と生徒）が、毎週（土曜日の9:00～12:00）商店街に足を運ぶ日々が再開します。準備や片付け、差し入れ、挨拶、お礼など、商店街の方々との会話は以前もありましたが、今回は人通りの多い表通りであることで、街の方々との会話がさらに増えました。かつてあったお店のイメージで絵を描いていることで、過去の思い出を語ってくれる方、

昔の写真を見せてくれる方もいました。さらに会話の中で、商店街の現状と課題、八街ミュージアムの現状と課題、アートが街と関わる新たなアイデアなど、自然な形で情報収集や意見交換ができました。シャッター画制作は単に絵を描くことではなく、学校と街の方々との重要な交流の場であり、地域と学校の連携を推進する重要な活動であると気付かされました。

ここで、ある記憶がよみがえります。以前、大学の先生が言った「八街ミュージアムは、いいアートプロジェクトになり得る」と「このプロジェクトには将来性を感じない」という言葉です。あの頃は大学の先生方の貴重な助言を八街ミュージアムに生かすことができませんでした。2018年時点では、日本各地で様々なアートプロジェクトが行われるようになっており、メディアでも度々取り上げられていたため、アートプロジェクトという言葉も徐々に身近になっていました。印旛地区の若い美術科の先生の一人が、新潟県の大学でアートプロジェクトを専攻していたことを知り、色々話を聞くこともできました。また3年に一度開催されている、世界最大規模の国際芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018（新潟県）」が夏期休業中に開催されていたため、3日間かけて街全体を使ったアートプロジェクトを体感することもできました。さらにアートプロジェクト等のアーカイブ資料を公開している「アーツカウンスル東京ROOM302（東京都千代田区「アーツ千代田 3331」3階）」で多くの資料に触れる機会もあり、その年の10月に迫った第10回八街ミュージアムに向けた、様々なヒントを得ることができました。



これ以降、アートプロジェクトとしての可能性を意識した形で、八街ミュージアムは開催されていきます。第10回（2018年）は、倉庫のギャラリー化、行事の横断幕を街に飾る“布”プロジェクト、市民参加型のシャッター画プロジェクト（市民参加型）、ホームページ開設、スタンプラリー参加者に特製シール配付など。翌年、第11回（2019年）は、展示場所を市内全域への拡大、Twitter開設、街で鑑賞授業を実施、市民文化祭との連携、美術教師やアーティストによる個展の開催、オープニングセレモニーとして演劇祭との連携、クロージングトークイベントの開催とライブ配信など。さらにコロナ禍における第12回展（2020年）は、街での作品展示とWeb展覧会の両立、街の魅力を可視化する「YACHIMATA漫画化プロジェクト」の立ち上げなど、展示の規模は縮小しながらも、アートと街の連携を模索しながら、着実に前進を続けています。

年表4 発展期（第10回2018年・第11回2019年）

※八街ミュージアムHP内、Wikipedia風、年表より ■：印旛郡市中学校美術部展に関する記載 ▲：成田アート博覧会に関する記載

2018年

・2018年2月 八街駅南口商店街振興組合が八街中学校にシャッター画を依頼。同校美術部による毎週土曜日のシャッター画制作開始。2007年ぶり2回目。1枚目（通算7枚目）のシャッター画は本屋さんのイメージ。後に「最後の本屋さん」として市民

参加型作品となる。2、3枚目（通算8、9枚目）のシャッター画を平行して制作。（シャッター画、第二期2018年～）
・2018年4月18日 八街駅市民ギャラリーにて八街中学校による「THE 八街駅展3（4/18～4/29）」開催。

【■2018年7月22日 佐倉市立美術館にて「第22回印旛郡市中学校美術部展（7/22～7/26）」開催】

【■2018年8月27日 千葉大学にて「第7回アートレセン（美術部実践交流会）in千葉大学」が印旛郡市中学校美術部展主催で開催】

- ・2018年8月 2、3枚目(通算8、9枚目)のシャッター画が完成。
- ・2018年8月30日 第10回八街ミュージアム開催に向けて、新潟県で3年に一度開催されている世界最大規模の国際芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018(新潟県)」を鑑賞(8/30~9/1)し、街全体を使ったアートプロジェクトを学ぶ。

- ・2018年9月24日 印旛郡市中学校美術部展HP内に八街ミュージアム特設ページをOPEN。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/index-y>

- ・2018年10月9日 八街市教育センターHP内に案内掲載。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/y-media>

- ・2018年10月15日 「第10回八街ミュージアム(10/15~11/4)」開催。ギャラリーまからんが八街駅南口商店街以外で初の展示場所となる。「布」プロジェクトとして、学校の行事で使用した横断幕や装飾を再利用し、街(店内、店頭、軒先、壁面、駐車場の金網)などを装飾。また、書店を描いたシャッター画「最後の本屋さん」に「あなたの人生に最も影響を与えた本」を描き込む市民参加型企画を会期中、毎週土曜日に実施。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/y-1-3-h1>



街を包む“布”プロジェクト

多くの中学校で美術部などが制作している手づくりの横断幕、絵や文字が美しく描かれ、多くの行事を盛り上げますが、目に触れるのは短期間です。そんな役目を終えた横断幕を利用して街を飾るのが「布」プロジェクトです。布に耐水性のアクリル絵の具などで描かれた横断幕は、屋内外を問わず「飾る」「吊りさげる」「包む」など用途は無限。また簡単な加工で「のれん」「のぼり」などにも変身します。八街ミュージアムでは、一度役目を終えた布たちが再びよみがえり、商店街を彩ります。



- ・2018年10月15日 コットン村イトウ倉庫をギャラリーに改造し、八街駅に特化した平面・立体作品による「大八街駅展 T H E 八街駅展第3.5回特別編」(10/15~11/4)開催。市内の書道家による題字の提供や、市内の画家による作品展示もあり、アーティストコラボのきっかけになる。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/y-1-3-e1>



美しくデザインされた駅「JR八街駅」の魅力が駅から最も近い学校「八街中学校」の生徒と先生が「八街愛」と「この街の未来への希望」を込めて表現し、駅を利用する皆様の市民の皆様など多くの皆様に八街駅の魅力を再確認していただく展覧会

“最後の本屋さん”プロジェクト

かつてこの場所に本屋さんがありました。しかし今はありません。八街中学校の美術部が4月から少しずつ描いているシャッター画の本屋さんも完成間近。この本屋さんには、題名のない本がたくさん並んでいます。

「ここは、シャッターに描かれた最後の本屋さんです。あなたの人生に、最も影響を与えた本、あなたが1冊好きな本を教えてください。あなたの大切な本の題名を、あなたの手で書き込み、大切な本を「最後の本屋さん」に並べてくれませんか。

“最後の本屋さん”は、たくさんの人の大切な本でいっぱいになり、ここにあり続けることができるのです。そしていつか、このシャッターが開いた時、みなさんの大切な本が並んだ、本当の本屋さんが中から現れたら！」



- ・2018年10月19日 読書新聞朝刊23面に案内掲載。
【2018年10月20日 ターナーギャラリーにて「アートクラブグランプリ(全国中学校美術部作品展)東京巡回展(10/20~10/27)」開催。印旛郡市中学校美術部展・あさか美術部合同作品展(埼玉県)が協力。
- ・2018年10月30日 千葉日報朝刊2面県東版に記事掲載。



- ・2018年11月 4、5枚目(通算10、11枚目)のシャッター画の制作を開始。
- ・2018年11月11日 印旛郡市中学校美術部展HP内に、ギャラリー拓道特設ページをOPEN。八街商工会議所の展示スペースが2018年12月より「ギャラリー 拓道」となることを発表。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/index-t>

- ・2018年11月17日 成田山表参道仲之町商店街・成田親光館にて「第8回成田アート博覧会(11/17~12/2)」開催
- ・2018年11月26日 印旛郡市中学校美術部展HPを印旛郡市中学校美術部展HP／八

- 街ミュージアムHP／成田アート博覧会HP／ギャラリー拓道HPが並列した共通HPとなる。
- ・2018年12月1日 ギャラリー拓道にて個展「八街中学校美術部展episode 1 “未来の私は”(12/1~12/20)」開催。これより八街中学校美術部専用ギャラリーとして運用開始。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode1>

- ・2018年12月22日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 2 新春美術部展(12/22~1/29)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode2>

2019年

- ・2019年1月27日 印旛郡市中学校美術部展／八街ミュージアム／成田アート博覧会／ギャラリー拓道と連動したTwitter開設。
<https://twitter.com/ArtclubG>

- ・2019年1月31日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 3 “個性”特集(1/31~3/1)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode3>

- ・2019年3月3日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 4 卒業展(3/3~3/29)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode4>

- ・2019年3月31日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 5 イラストレーション展(3/31~4/26)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode5>

- ・2019年4月5日 八街ミュージアムHP内の「八街市内のアートな建築物や作品など」のページから独立した『八街ミュージアム・アートなも 連絡特設サイト』開設。
<https://yachimata-museum.jimdosite.com/>

『八街ミュージアム・アートなも 連絡特設サイト』の説明文「八街ミュージアムとは、千葉県八街市(やちまた市)にあるミュージアムです。八街市内小中学校の図工・美術の教員のグループが主催し、市内各所で地域との連携・芸術活動の啓発や充実を目的として市内各所でミュージアム活動を行っています。しかし専用のミュージアムはありません。つまり八街市全体がミュージアムというコンセプトのもと、市内各所でミュージアムを開催しています。」を受け、これ以降、11月の八街大祭にあわせた約半月の展覧会(八街ミュージアム展)を含めた、年間を通して八街市内各所で行われる様々なミュージアム活動の総称を「八街ミュージアム」と呼ぶ。

- ・2019年4月17日 八街駅市民ギャラリーにて「THE 八街駅展 4(4/17~4/29)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/jhs-yachimata>

- ・2019年4月27日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 6 イノガニック展(4/27~5/20)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode6>

- ・2019年5月26日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 7 自然と風景展(5/26~7/20)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode7>

- ・2019年7月22日 八街駅北口広場にて開催の「ちばクラフト青空ビアガーデン」の絵画ワークショップに八街中学校美術部参加。
- ・2019年7月22日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode 8 もうひとつの美術部展(7/22~8/5)」開催。
<http://bijyutubu.sakura.ne.jp/t-episode8>

- ・2019年7月24日 佐倉市立美術館にて「第23回印旛郡市中学校美術部展(7/24~7/28)」開催

・2019年8月7日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode9 踊りのダイナミック展 (8/7~8/28)」開催。
<http://biyutubu.sakura.ne.jp/t-episode9>

・2019年8月17日 八街ふれあい夏祭りにて市内中学生による「お絵かき傘アート」を八街駅南口商店街に展示。
https://twitter.com/na7_official/status/1162640304433799169



【■2019年8月23日 千葉大学にて「第8回アートレセン(美術部実践交流会) in 千葉大学」が印旛郡市中学校美術部展主催で開催】

【■2019年8月24日 東金サンピア アートギャラリーにて「第1回山武郡市中学校美術部・小学校図工クラブ展覧会 (8/24~8/25)」開催。印旛郡市から山武郡市に異動した美術部顧問が中心となり立ち上げ。
 ・2019年9月12日 ギャラリー拓道にて「八街中学校美術部展episode10イラスト展II (9/12~10/4)」開催。
<http://biyutubu.sakura.ne.jp/t-episode10>

【■2019年9月14日 ターナーギャラリーにて「アートクラブグランプリ(全国中学校美術部作品展)東京巡回展(9/14~9/21)」開催。印旛郡市中学校美術部展・あさか美術部共同作品展(埼玉県)が協力
 ・2019年10月1日 八街ミュージアム展を中心に『若きアーティスト(市内小中学校の児童・生徒)が活躍する「演劇祭」作品展」「音楽祭」など様々な文化的行事が集中的に開催される10・11月の約8週間』を八街アートウィーク秋と設定。チラシ、HPで広報。
 ・2019年10月4日 地域新聞(富里・八街版)(成田版)に記事掲載。



・2019年10月13日 「第11回八街ミュージアム展」と連携し、スタンプラリー開始の重要なイベントである「第1回八街演劇祭~Yachimata Drama Festival~(八街市中央公民館大ホール)」が台風19号接近により延期となる。中学・高校演劇部の演劇等と特別ゲスト「モロ師岡(八街市出身) オンステージ」が予定されていた。(12/24開催)

・2019年10月14日 「第11回八街ミュージアム展 (10/14~11/3)」開催。八街駅南口商店街エリアを中心に、東西南北のエリアで開催。八街駅南口商店街振興組合、八街市中学校美術部顧問会に加え、本年度より複合型リゾート「小谷流の里ドギーズアイランド」と八街市内の芸術作家による「八街市の文化芸術振興を考える会」が協力。Nuts Up?にて「バルサミコヤス個展~バルータバニート~ (10/14~11/3)」開催。



・2019年10月23日 八街駅市民ギャラリーにて『社会科副読本「わたしたちの八街市」佐藤誠一郎原画展 (10/23~11/4)』開催。



・2019年10月23日 八街中学校校内授業研修会を八街駅南口商店街にて実施。題材名「美術を通して社会にどう貢献できるのか~八街ミュージアム展の鑑賞~(中学2年)」の2時間目(全3時間)、学習課題は「美術は街と、どのように関わっているのか」。成田市立成田中学校美術科教諭(成田アート博覧会代表・初代八街ミュージアム代表)を講師に招く。
 ・2019年10月26日 自宅手創りぎやらりーまかろんにて「玉造明男個展~Yachimata City Serenade~ (10/26~11/4)」開催。



・2019年11月1日 八街市中央公民館にて「第6回八街市中学校美術部展 (11/1~11/3)」開催。同じく八街市中央公民館で開催される「八街市市民文化祭」「八街市の文化芸術振興を考える会作品展」が児童・生徒の作品展示のないスタンプ押印場所として、スタンプラリーに参加。

・2019年11月3日 Nuts Up?「バルサミコヤス個展」会場にて、20:00より約30分間『クローキングトークイベント「八街ミュージアムを語る」』開催。バルサミコヤス・佐藤誠一郎・玉造明男など8名が登場。Nuts Up?のFacebookにてライブ配信。
<https://www.facebook.com/yachimatanutsup/videos/vb.427593208035450/417447919188599/?type=3&theater>

【▲2019年11月17日 成田山表参道仲之町商店街・成田観光館にて「第9回成田アート博覧会 (11/17~12/1)」開催】

・2019年11月24日 ギャラリー拓道にて個展「八街中学校美術部展episode11「八街」(11/24~12/13)」開催。
<http://biyutubu.sakura.ne.jp/t-episode11>

・2019年11月29日 「第70回 千葉県教育研究会造形教育部会研究大会」にて「八街ミュージアム」に関連したの研究発表【提案者:八街東小学校図画工作科主任(八街ミュージアム副代表)】と、来年度の研究発表に向けたプレ提案「学校発アートプロジェクトの必要性(仮)【プレ提案者:八街中学校美術科主任(八街ミュージアム代表)】」。

・2019年12月1日 ペットボトルリサイクルライトアップツリー(4中学校区4つのペットボトルツリーを八街駅北口「森のいずみ公園」に設置)を中心に「若きアーティスト(市内小中学校の児童・生徒)が活躍する「演劇祭」作品展」など様々な文化的行事が集中的に開催される12月を八街アートウィーク冬と設定。HPで広報。
 ・2019年12月15日 ギャラリー拓道にて個展「八街中学校美術部展episode12「飛行」(12/15~1/10)」開催。
<http://biyutubu.sakura.ne.jp/t-episode12>

・2019年12月24日 10月13日台風19号接近により延期となった「第1回八街演劇祭~Yachimata Drama Festival~」が八街市中央公民館大ホールで開催。出演団体:八街中学校演劇部・八街中央中学校演劇部/ゲスト:千葉黎明高等学校演劇同好会D A W N S・市内中学校演劇部卒業生らによる有志劇団/特別出演:モロ師岡氏(八街市出身:俳優、コメディアン)/主催:八街市中学校顧問会/後援:八街市教育委員会

・2019年12月24日 10月13日台風19号接近により延期となった「第1回八街演劇祭~Yachimata Drama Festival~」が八街市中央公民館大ホールで開催。出演団体:八街中学校演劇部・八街中央中学校演劇部/ゲスト:千葉黎明高等学校演劇同好会D A W N S・市内中学校演劇部卒業生らによる有志劇団/特別出演:モロ師岡氏(八街市出身:俳優、コメディアン)/主催:八街市中学校顧問会/後援:八街市教育委員会



八街を描く3

『社会科副読本「わたしたちの八街市」佐藤誠一郎 原画展』個展

川上小学校 佐藤誠一郎 2019年10月23日(水)～11月4日(月)八街駅市民ギャラリー

八街市の小学校3、4年生が社会科で使用する「わたしたちの八街市」のイラストを中心に、自身初の個展。



証言2 佐藤 誠一郎 (川上小学校)

こちらの文に、お目を止めていただきありがとうございます。佐藤誠一郎と申します。この度、八街市の小学校3、4年生が社会科の勉強で使用する「わたしたちの八街市」の全面リニューアルにもないイラストを担当させていただきました。

わたし自身、幼いころより八街で育ち今現在は、八街市立川上小学校で教員として勤務しています。小さいころから絵を描くのが好きで、学生の時にはマンガ家になるのを夢見て活動していましたが社会人になった後、ちょっとしたキッカケから、教員になりたいという新しい夢を見つけ、今に至ります。今回、こういった形で故郷である八街に貢献できるのを大変光栄に思います。美術館のない八街だからこそ、町全体を美術館(ミュージアム)にしようという「八街ミュージアム展」を彩る作品の一つとしてお楽しみいただければ幸いです。

2019年 社会科副読本「わたしたちの八街市」佐藤誠一郎原画展(八街駅市民ギャラリー) あいさつ文より

佐藤 誠一郎(さとう せいいちろう) 八街市立川上小学校教諭。大学のマンガ学科を卒業後、八街中学校美術科補助員等を経験。2019年『社会科副読本「わたしたちの八街市」佐藤誠一郎原画展(八街駅市民ギャラリー)』で第11回八街ミュージアム展に参加し、八街愛賞を受賞。「アトリエ職員室展(佐倉市立美術館)」に2018年より参加。2019年には、学校や地域に関連する作品、授業や授業の参考作品として制作した作品を積極的に発表していく「スクールアートプロジェクト」に参加。

八街を描く4 『最後の本屋さん』シャッター画

シャッターにアクリル 令和元年度八街中学校美術部 2018年

シャッター画プロジェクト第2期1作目 八街駅南口商店街

職場体験学習で交流のあった商店街と学校によるシャッター画プロジェクト。第一期は八街中央中学校美術部による2003年～2007年。八街中学校美術部による第二期(2018年～)は、かつてその場所に存在した店の面影を残してほしいとの要望を商店街から受ける。1作目(通算7枚目)は、かつてこの場所に存在した書店のイメージ。制作過程で市民参加型作品へと発展したため、正式には2020年現在も制作中(未完成)。絵の中に、かつて市内に存在した映画館「八街銀映」のポスター(現代風にアレンジ)を描くなど、街の歴史や、街の人々の思いをつめこんだシャッター画となった。

**あなたの人生に最も影響を与えた本
あなたが1番好きな本を
絵の中の本屋さん に並べませんか**

以下2020年現在、作品中に描かれた約40冊の本の一部。
(著者・出版年・題名/推薦者イニシャル・在住)

- 夏目漱石 1907年『坊っちゃん』/Y.T八街市
- 宮沢賢治 1934年『銀河鉄道の夜』/T.T八街市
- アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ 1943年『星の王子さま』/K.K千葉市
- 稲垣足穂 1948年『母・マキニカリス』/Y.K東京都中野区
- J・D・サリンジャー 1951年『ライ麦畑でつかまえて』/A.T千葉市
- カート・ヴォネガット 1959年『タイタンの少女』/Y.N八街市
- 小川洋子 2003年『博士の愛した数式』/K.M八街市
- 植松努 2009年『NASAより宇宙に 近い町工場』/K.I成田市

“最後の本屋さん” プロジェクト

かつてこの場所に本屋さんがありました。しかし今はありません。八街中学校の美術部が4月から少しずつ描いているシャッター画の本屋さんも完成間近。この本屋さんには、題名のない本がたくさん並んでいます。

「ここは、シャッターに描かれた最後の本屋さんです。あなたの人生に、最も影響を与えた本、あなたが1番好きな本を教えてください。あなたの大切な本の題名を、あなたの手で書き込み、大切な本を“最後の本屋さん”に並べてくださいね。

“最後の本屋さん”は、たくさんの人々の大切な本でいっぱいになり、ここにあり続けることができるのです。そしていつか、このシャッターが開いた時、みなさんの大切な本が並んだ、本当の本屋さんが中から現れたら！」



多くの人に、大切な思い出と、名刺(イニシャルなど)を書き込んでもらい、本屋さんを完成させます。

Episode5

～《表現》《発表》《鑑賞》～

授業

を循環させる～

《発表》

学校を含む
街全体

《表現》

《鑑賞》

八街ミュージアムは、図工室や美術室で日々生み出されている多くの作品に《発表》の場を与えたいという先生や街の人々の想いからスタートしました。コンクールなど既存の《発表》の場だけに頼るのではなく、それまで無かった《発表》の場を生み出していき、主体的な《発表》の形です。先生方や街の人々の意見やアイデアも柔軟に取り入れ、《発表》の時期や場所、規模や内容など、その年々の状況や各校の実態によって自由に変化させられます。独自のホームページ（2018年からWeb展を開催）を運営することで、Web上での学習にも柔軟に対応できます。今後さらに、授業との連動や、新題材の開発などの広がりも期待できます。

八街中学校、美術科の授業では、八街ミュージアムに関連した授業を全学年で行っています。《表現》と《鑑賞》に、3つ目の重要な要素《発表》を加え、この《表現》《発表》《鑑賞》を学校を含む街全体で循環させていきます。また、講師を招く校内授業研修会で、八街ミュージアムに関連した授業を積極的に行うことで、多くの先生方から意見や感想をもらい、授業や活動を常に検証し、改善していきます。

- ・《表現》《発表》《鑑賞》の3つを相互に関連付けながら、学習計画の中に配列していく。
- ・研究発表会や授業研修会を積極的に活用することでPDCAサイクルを確立し、より質の高い学びを実現する。
- ・街全体が美術館であるという考えのもと、今まで主に学校内で行われてきた教育活動を、街や人を巻き込んで展開する。

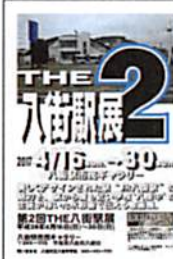
《発表》：【1年生「写生会」導入：「THE八街駅展」】

八街中学校1年生が写生会（5月初旬）を行う直前に、前年度の1年生が写生会で描いた作品による展覧会「THE八街駅展」を、八街駅市民ギャラリーで開催します。これから自分たちが制作する作品が、駅や街の魅力を多くの人々に伝えることを想像し、社会における美術の役割に気づきます。



『THE八街駅展』
2016年4月16日（土）～30日（土）八街駅市民ギャラリー

JR八街駅は八街市の「八」と、八街市の前年2015年始まった八街中学校1年生約200人による八街駅での写生会。その作品を翌年駅に展示する展覧会。八街駅の魅力や八街駅を利用する人々に知って（気づいて）もらうことが主たる目的。さらに入学直後の新1年生が、4月に展覧会を鑑賞し、5月に写生会を行うことで、鑑賞→表現→展示のサイクルをつくる。作品に取り付けられたキャプションは、写生会作品を街に展示する「成田アート博覧会」を参考にし、題名・氏名の他、作者による作品解説文が記載されている。その他、写生会当日の様子や、八街駅のように美しくデザインされた日本各地の駅などを、写真や説明文で掲示している。額装・展示を八街中学校美術部が担当。



『THE八街駅展2』
2017年4月16日（日）～30日（日）八街駅市民ギャラリー

昨年度の写生会（2年目の写生会）より、5月に写生会を行い1学期に作品完成することができるようになったため、多くの作品を秋以降の作品展に応募することができるようになる。これにより、前年度「こども県展（主催：千葉日報社）」や「八街市情操展」で受賞した作品を中心に展示するの形が定着する。「THE八街駅展2」は、「こども県展」や「八街市情操展」の受賞した作品21点を展示。



『THE八街駅展3』
2018年4月18日（水）～29日（日）八街駅市民ギャラリー

昨年度「こども県展」や「八街市情操展」の受賞した作品を中心に20点を展示。
4月23日（月）読書新聞朝刊27面千葉版に「八街駅周辺の風景 中学生が描いた20点」の記事が掲載される。



『大八街駅展<THE八街駅展第3.5回特別編>』
2018年10月15日（月）～11月4日（日）コットン村イトウ倉庫特設ギャラリー

シャッター画のペンキ置き場としてお世話になっていた倉庫を改造した特設ギャラリーに、第10回八街ミュージアム内の企画として、八街駅に特化した平面・立体作品を週ごとに入れ替えて展示。会期中、市内書道家提供や、市内画家の提供もあり、展示のアーティストも、コラボのきっかけとなる。



『THE八街駅展4』
2019年4月17日(水)～29日(月)
八街駅市民ギャラリー
昨年度「こども県展」や「八街市情探展」
で受賞した作品19展
示。





展示スペース2
『八街駅市民ギャラリー』
(JR八街駅自由通路)

八街駅にあるショーウィンドウ型ギャラリー。四つ切りサイズ24枚が展示可能。八街市教育委員会社会教育課が管理。


展示スペース3
『コットン村イトウ倉庫
特設ギャラリー』
(2018年使用 八街駅南口商店街)

倉庫を改造した3週間限定特設ギャラリー。シャッター画のベンキ置き場としてお世話になっていた倉庫を、期間限定で改造。作品はイーゼルを12台を設置して12点前後、展示可能、“布”プロジェクトとして、壁面は行事の総称を再利用!



『THE八街駅展5』
2020年4月17日(金)～29日(水)
八街駅市民ギャラリー

コロナ禍(中学校臨時休業中)での展示のため、これまでのように、準備や展示を八街中学校美術部員がおこなうことができず初め教師のみでおこなう。昨年度「こども県展」や「八街市情探展」で受賞した作品17点を展示。「もうひとつの八街駅展(ギャラリー拓道)」と同開催。初の2ヶ所での八街駅展開催となる。



『八街中学校美術部展episode16
“もうひとつの八街駅展”』
2020年4月12日(日)
～6月29日(月)
ギャラリー拓道

「THE八街駅展5」に展示されている作品以外から選んだ美術部員の写生会作品10点を展示。臨時休業もあり、2ヶ月半の長期展示となる。




《表現》:【1年生「写生会・八街駅を魅力的に描く」(14時間)】

JR八街駅は八街市の「八」と、八街市の特産品である落花生をモチーフとした美しいデザインの駅舎です。2015年始まった八街中学校1年生約200人による八街駅での写生会「八街駅を魅力的に描く」は、新入生が美術科で最初に取り組む長期題材です。自分の住む街の象徴的な建物「八街駅」のデザイン性の高さについて知り、その魅力を表現します。また、この題材で《表現》《発表》《鑑賞》の循環について意識させます。

- ・八街中学校で制作する作品は、基本的に《発表》を前提としていること、《鑑賞》者がいることを伝え、意識させる。
- ・授業の導入で、「THE八街駅展」の様子を映像で見せ、完成後の作品の一部が駅のギャラリーで《発表》されることを伝える。
- ・先輩の作品が自分たちの制作につながり、自分たちの作品も後輩の制作につながることを知り、《表現》《発表》の循環を意識する。
- ・《表現》の途中に、目の前の《鑑賞》者に作品をみせながら制作意図を言葉で伝える、学級内《発表》を全員が行う。
- ・作品完成後に作品解説文(展示のキャプションに使用)を書き、自分の《表現》を《鑑賞》者に、文章で伝える。
- ・街で《発表》(展示)が行われている時期は、授業と関連付けながら積極的に《鑑賞》を促し、他者の《表現》に関心を高く持たせる。

2014年度 第1学年 美術科学習指導案(一部抜粋)

1 題材名 心ひかれる風景 ―八街駅を魅力的に描こう― (表現・風景画・水彩画)

2 題材について
本校は今年創立70周年を迎える伝統校である。JR八街駅から最も近い学校であり、駅北口から中学校まで続く直線道路は「花ロード」と呼ばれ、歩道に並ぶプランターの花を、生徒が毎朝水をあげて育てている。JR八街駅の駅舎は、八街市の「八」と八街市の特産品である落花生をモチーフとした美しいデザインである。北口の駅前広場には、落花生のモニュメントや美しい馬の野外彫刻があり、アートの空間が広がっている。しかし、その魅力は、この街で生活する私たちにも、日常的に駅を利用する人々にも、十分には理解されていないように感じる。

昨年度より、1学年の生徒約200人が、JR八街駅北口ロータリー付近でおこなう写生会をおこなっている。導入で透視遠近法や、近景と遠景を組み合わせ合わせた奥行きのある構図などを紹介し、屋外の広い空間で描く絵画の魅力を感じた後、写生会で鉛筆による下絵作成をおこなう。ここでは身近なものから造形的な美しさを感じ取る力や、対象を深く観察する力を育てると共に、公共の場で責任ある行動を取ることを大切さを学ぶ。さらに5月から7月末までの約10時間の授業で、水彩絵の具による彩色を行う。透明水彩絵の具の基本的な使い方や効果を学ぶと共に、様々な作品鑑賞から多様な表現を知る機会とする。本校が全教科・領域で研究している「学び合い」と、本校美術科の研究主題である「美術におけるコミュニケーション能力を育成し、作品に込められた想いを共有化する授業づくり。」を授業の柱として、4人組で学び合う場面や、絵に込められた想いを発表する場面を多く設定する。また、表現及び鑑賞の様々な学習を通して、形や色彩がもたらす感情を理解し、対象のイメージをとらえることを指導(共通事項)し、豊かでのびやかな感性を育てたいと考える。

完成した作品は、コンクールへの出品を積極的に進める。生徒が心を込めて制作した作品を、美術室や校内掲示で完結することなく、多くの方に鑑賞していただく場を積極的に増やすことで、表現することの喜びはさらに増していくと考える。また駅構内にある市民ギャラリーにおいて、多様な表現で描かれた八街駅と共に、生徒それぞれの思いを記した作品解説や写生会の様子が伝わる写真を展示する「THE八街駅展」を開催し、駅利用者へ八街駅の魅力伝える場とする。

学習指導要領に「表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。」とある。身近な駅を描く本題材は、八街駅の美しさや魅力を十分に体感する機会となり、また自分たちの生活する街に自信と誇りを持つことが期待できる地域題材である。地域に中学生の学習成果を積極的に発信し、生徒を取り巻く多くの人々に中学生が生き生きと学ぶ姿を知っていたことは、地域に愛される学校づくりにつながると考える。

3 指導計画(14時間扱い)

時配	主な学習活動
2	①写生会について知り、当日の活動内容や約束事を理解する。
2	②駅のデザインや美しさに興味を持ち、作品の構想を練る。
2	③風景や建物から感じた美しさや印象を、鉛筆で表現する。 ※写生会 JR八街駅 平成28年5月16日(月)
2	④水彩絵の具の様々な表現を知る。
7	⑤風景や建物から感じた美しさや印象を、水彩絵の具で表現する。
1	⑥仲間の作品に込められた様々な思いを知り、自分の作品に生かす。 ⑦発表会(一人づつ作品を提示しながら、駅で何を感じ、それをどう表現し、これからどう制作を進めるかを発表する。)
1	⑧仲間の作品のよさを感じ取る。

《鑑賞》:【2年生「美術を通して社会にどう貢献できるか」(3時間)】

3学期の授業で制作した作品は、《発表》の場がほとんどありません。八街中学校では2019年より、2年生が前年度3学期に制作した「寄せ木彫刻」を八街ミュージアム展に展示しています。本題材は、自分や級友が1年前に《表現》した作品が《発表》されている八街ミュージアム展に足を運び、作品の《鑑賞》や街の人々との対話を通して、美術と社会の関わりを考えます。

- 1時間目:・八街ミュージアムHPを使い、八街ミュージアム展の経緯や、現在の展示の様子を知る。※HPを授業用にリニューアル
 ・展示作品や展示の様子を画像で確認しながら、商店街での作品鑑賞と質問の計画を立てる。
 2時間目:・商店街での作品鑑賞とお店の方へのインタビューを行う。※「小学校での街探検」「中学校での写生会」の経験を生かす。
 3時間目:・商店街での体験と、インタビュー内容を元に、自分たちがつくった作品が、街や人にどのような影響を与えているのかを話し合い、「美術を通して社会にどう貢献できるか」を考える。

2019年度 第2学年 美術科学習指導案(一部抜粋)

1 題材名 美術を通して社会にどう貢献できるかー八街ミュージアム展の鑑賞ー



2 題材について

(1) 題材観

八街市は20年以上前より、小中連携を初めとした様々な連携に力を入れてきた地域である。これは学級、学年、学校という、閉ざされた集団で起こる諸問題を、子どもたちが地域や保護者など多くの他者と関わることで乗り越えた歴史があるからである。それぞれの学校が“連携”と名の付くものを貪欲に取り入れてきた。新たな連携の可能性を模索し、連携によって生まれた様々な取り組みを称賛してきた。連携の必要性を多くの教員が感じていることと、生徒指導的な問題を乗り越えてきた地区だけに、指導力のある、生徒想いで熱心な教員が多いこと、そうした素地の上で、どの学校も主体性を持って様々なチャレンジを繰り返してきたことが、八街市の連携教育充実の理由である。

市内で最も古い中学校である本校は、市の中心に位置し、市役所やJR八街駅から最も近い学校である。駅北口から中学校までの直線道路は「花ロード」と呼ばれ、近隣の高校が育てた苗を、地域の方の指導の下、中学生がプランターに植え替え、歩道に並べ、毎朝水をあげて育てているものである。毎年5月には、1学年約200人が落花生型の八街駅を描く写生会を行っている。完成した作品は八街駅自由通路のショーウィンドウ「八街駅市民ギャラリー」に展示する。自由通路を通過して南口に出ると、現在開催中である「八街ミュージアム展」のメイン会場、八街駅南口商店街がある。

市内図工・美術科と八街駅南口商店街との積極的な関わりは、2004年、落書き防止のためのシャッター画制作を八街中央中学校美術部が依頼されたことに始まる。2009年、商店街を美術館に見立てた企画を学校側が商店街に持ち込み、小中学校2校による「第1回八街ミュージアム(現、八街ミュージアム展)」が開催される。2015年には市内全小中学校(12校)が参加。アートプロジェクトとしての可能性を模索しながら徐々に広がりを見せる11年目の本年度

(2019年)は、会場も東西南北に広がり、アーティストの個展や、演劇祭、市民文化祭との連携も実現した。八街ミュージアムにより、小中学校の図工・美術主任のつながりも密になり、学校と地域が主体的にアイデアを出し合う関係もできつつある。今年8月の夏祭りは小中学生が着色した傘が夜空を彩る「お祭りちようち傘プロジェクト」が商店街の企画で立ち上がった。シャッター画は、街の記憶を残したいという商店街の想いに答える形で、現在も毎週土曜日に行われている。学校行事の横断幕を商店街に寄付し、街のあちこちに飾る「布プロジェクト」も、昨年度よりスタートした。ゆっくりではあるが確実に、アートを軸にした街づくりが加速しているように感じる。

本題材は生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力を育てるために、B鑑賞イ、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考え、見方や感じ方を広げたり深めたりする学習である。美術科の授業の内容を学校内で閉じることなく、生活や社会とつなげて関わりをもたせ、気付かせる工夫をしながら、主体的に生活や社会の中で美術を生かし、創造していく態度を養う。商店街での鑑賞では、造形的な視点を意識させることで、漠然と見ているだけでは気付かなかった形や色彩などの働きに気付かせる【共通事項ア】。さらに店主との会話や、作品が店に溶け込むように展示されている様子を見ながら、美術が社会にどのように関わっているかを、実感をもって感じさせたい【共通事項イ】。



3 指導計画(3時間扱い)

時記	主な学習活動
1	①グループでタブレットを使った調べ学習「八街ミュージアム展って何だろう?」を行う。(八街ミュージアムHPを使用) ②各自の「問い」と「鑑賞の視点」を考え、どの店舗で鑑賞するか、何を聞かかなどの計画をたてる。 ③グループごとに、店内を想定したロールプレイングを行う。
1	④美術は街とどのように関わっているのかを考えながら八街ミュージアム展を鑑賞する。
1	⑤4人組の学び合いを行い、思考ツールで考えを整理しながら、「美術を通して社会にどう貢献できるか」を考える。

証言3 須藤 広将(須藤薬局 八街駅南口商店街)



こんにちは。須藤薬局の薬剤師の須藤広将といいます。今回は八街ミュージアムということで、このような形で作品を作っていただき、ありがとうございます。先生方から、いただいた作品を薬局のスタッフの方がこのような形でプレイしていただき、待合室で待っている患者さんの会話の種になっています。何か質問の中で、売りに上げて貢献して下さるかというのがあったのですが、こういった作品を見て風邪薬を買おうという気持ちにはならないと思います。ただ、この作品を見て、「ああ、なんかいいな」って思えるということが、非常に大事、有意義なものだと思うので、その「なんかいいな」って、心の楽みみたいなものになってくれれば、うれしいかなとは思っています。

今回11年、非常に長い期間、八街ミュージアムをやっているということなんですけど、美術ですとか関係なく、色々な人が色々な形でこういうものを作るということにチャレンジできる時代なので、YouTubeでも、ticktock?でも、ケータイの写真でも、色々な発信の方法が今ありますから、全ての人が何かしら、どんなものでいいから、色々なものを作ってほしいなと思います。

玉造先生は、私が中央中学校時代の美術の先生でした。学生時代はあんまり美術が得意な方ではなかったですし、先生とそこまでしゃべったりすることもなかったのですが、卒業してから、このような機会をいただいたことで、時間を超えて、先生と関わったりするので、みなさんの中で、もしかしたら10年後20年後、先生ですとか、自分が意図しないような出逢いが待ってたりするので、自分の将来を楽しみにして欲しいと思います。

(2019.10.16 第11回八街ミュージアム展協力店舗「須藤薬局」にて動画撮影)


須藤 広将(すどう ひろまさ) 須藤薬局、薬剤師。八街中央中学校卒業。良本を紹介する活動に参加。

《鑑賞》：【3年生※1, 2年生自由課題 「動画配信授業 - 八街駅」(全5回)】

臨時休業中の4月から5月にかけて、3年生(1, 2年生自由課題)の動画配信授業として「八街駅(全5回)」を配信しました。前半(第1回～第3回)は身のまわりのデザインについて考える内容。後半(第4回・第5回)は街に出て絵を描くことや、街に作品を展示することを通して、社会における美術の役割を考える内容です。オリジナル動画と関連動画(NHKやYouTube等)を合わせて約20分の動画を視聴した後、約20分でレポート(第5回のみ実技を含む)を作成します。これは、2020年3月(臨時休業開始直後)に開講し、中学校のHP・マチコミメール・Googleドライブ・YouTubeを活用して配信した「ネット拓道塾」の動画配信授業の一つです。

すでに夏休みの学習会として定着していた「拓道塾(たくだうじゅく)」をネット版にした「ネット拓道塾」です。5月までの3ヶ月で全学年で約180本の動画配信授業を作成しました。「ネット回線等に関するアンケート調査」により、新3年生の98%が、何らかの方法でホームページの閲覧や動画の視聴が可能であることがわかりました。ただし「親がテレワーク中は使用不可」「高校生や大学生の兄・姉が昼の時間帯はオンライン授業のため使用不可」など、時間の制約があることもわかり、時間を選ばず、後から見直せる動画配信の形をとりました。多くの教科で、3年生は必修課題としたため、希望者は予約制でパソコン室を使用できるようにしました。

第1回「日本の美しくデザインされた駅たち」 2020年4月23日(木)の動画配信授業 4分41秒 +NHK高校講座美術I「建築」




第1回
日本の美しくデザインされた駅たち

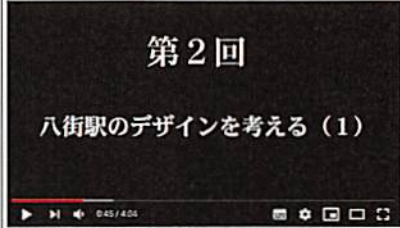
※八街中学校 美術科 調べ

「何のためにデザイン性の高い駅は存在するのだろうか」

日本各地に存在する、八街駅のようにデザイン性の高い駅を紹介。なぜ、四角い駅ではなく、デザインにこだわった駅は存在するのかを問う。




第2回「八街駅のデザインを考える(1)もの」 2020年4月30日(木)の動画配信授業 4分4秒 +NHK高校講座美術I「プロダクトデザイン」




第2回
八街駅のデザインを考える(1)

「何かの形からデザインされたものを、さがしてみよう」

「ハリネズミ型のシュガーポット」「富士山型のカップ」「タコ型の小物入れ」「砂時計型のお皿」「鼓型の駅」など、ものの形からデザインされた工芸作品や駅を紹介。八街駅や交番の屋根が、落花生の形からデザインされていることに気づき、身近にあるデザインに興味を持つ。




第3回「八街駅のデザインを考える(2)文字」 2020年5月13日(水)の動画配信授業 8分 +NHK高校講座美術I「文字」



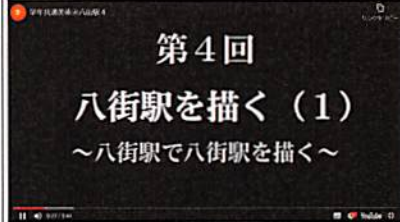
第3回
八街駅のデザインを考える(2)
「文字」のデザイン

「文字の種類や、形や色の違いを気にして、身のまわりの文字をみてみよう」

八街駅の屋根や、ロータリーの時計の台が、漢字の「八」からデザインされていることを知る。文字をデザインにいかしたものを、美しくデザインされた文字など、身のまわりにあふれている様々な文字に興味を持つ。




第4回「八街駅を描く(1)八街駅で八街駅を描く」 2020年5月20日(水)の動画配信授業 5分44秒 +YouTube「パリの風景」



第4回
八街駅を描く(1)
～八街駅で八街駅を描く～

「八街に住む皆さんが、八街駅で八街駅を描くことには、どんな意味があるのだろうか」

見慣れているはずの八街駅。しかし実際に絵を描くことで、初めて気付くことも多い。自分と異なる視点で八街駅をみている仲間が存在にも気付く。写生会を行うことの意味を考え、自分の言葉で表す。



第5回「八街駅を描く(2)絵に込めた思い」 2020年5月27日(水)の動画配信授業 5分41秒 +実技：身近にある美しいと感じる物や風景を描き、理由を①色②形③自分との関係性(愛着や思い)の視点で説明する。



第5回
八街駅を描く(2)
～絵に込めた思い～

「作品と作者の言葉から、感じ方の違いや表現の違いを考えよう」

先日まで八街駅市民ギャラリーで開催されていた「THE 八街駅展5」の展示作品の中から、5つの八街駅を鑑賞する。同じ日に、同じ八街駅を見ているのに、様々な八街駅が完成するのはなぜか。表現の違いを楽しみ、興味を持つ。

